

令和6年度

試験名:学群編入学試験

【医学群 看護学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
専門科目	<p>問題1</p> <p><出題意図></p> <p>現在においては、長期的な療養が必要な人は、退院した後も継続して医療・保健・福祉・介護のサービスを受けながら、地域で生活していく。そうした長期的な予後に向けて、計画的で早期の「退院支援」「退院調整」がより重要となっており、この点に関する知識を問う。</p> <p><解答例></p> <p>(1)</p> <p>退院支援 患者が自分の病気や障害を理解し、退院後も継続が必要な医療や看護を受けながらどこで療養するか、どのような生活を送るかを自己決定するための支援</p> <p>退院調整 患者の自己決定を実現するために、患者・家族の意向を踏まえて環境・ヒト・モノを社会保障制度や社会資源につなぐなどのマネジメントの過程</p> <p>(2)</p> <p>退院支援は、意思決定のための支援であり、入院が決定された時点から始める必要がある。具体的には、外来にて入院が計画されたときから、退院支援の対象であると把握する。また入院後、治療の経過に沿って、退院時の状態を想定して、退院支援を行う。そして、退院前に、退院支援によって設定された目標に向かって、退院後に必要な医療・介護・福祉・保健のサービスや療養環境を整えるべく、退院調整を行う。</p> <p>問題2</p> <p><出題の意図></p> <p>小児に対するインフォームドアセントの問題である。発達段階に応じて伝える内容や言葉、方法を選択必要がある。小児の発達段階から理解度をアセスメントする能力、インフォームドアセントの看護実践に必要な能力を問う。</p> <p><採点基準と解答例></p> <p>(1)</p> <p><解答例></p> <p>A ちゃんは、エリクソンの発達段階に基づく幼児後期にあたる。ピアジェの発達理論に基づく、前操作期、ハヴィガーストの発達理論に基づく、乳幼児期にあたる。この時期は、自立性が育まれ、見立て遊びやごっこ遊びを通して物事を理解する時期である。また、自分自身の立場からしか物事を見ることができない、自己中心性の時期である。</p> <p>(2)</p> <p><解答例></p> <p>インフォームドアセントとは、子どもの疾患とその治療法について、保護者に対して説明し同意を得るだけでなく、子どもの理解度に応じて分かりやすく説明し、納得・同意を得ることである。</p> <p>(3)</p> <p><採点基準></p> <p>・処置が必要な理由を患児の発達段階に合わせて伝えている</p>

- ・患児の発達段階に合わせて処置の内容を伝えている
- ・患児の理解の程度・思いを確認している

<解答例>

インフォームドアセントは、家族の同意を得たうえで、患児が検査を前向きに行えるように、発達課題に合わせた適切な説明とともに、理解度や思いの確認を行うことが求められる。本事例では、幼児後期という発達段階を踏まえ、以下の実践が求められる。

- ・母親に採血の説明をすることを伝え、同意を得て同席してもらう
- ・イラストを用いて、「なんでお熱が出ているかを調べるために明日の朝血をとるよ」「血を調べると体の色々なことが分かるよ」と伝える
- ・人形を用いて採血の手順を説明する。
- ・実際に採血で使用する物品を触ってもらう
- ・患児に採血を頑張れそうか、思いを確認する
- ・痛そう、怖い、という思いの表出があれば、共感し、母親が付き添えること、お気に入りのおもちゃを持参していいことを伝える

問題 3

<出題意図>

文章を読み込む力と同時に、考えを論理的に述べる力を問う。

<解答例>

(1)

- ・論理的思考力(採点のポイント:文章全体が一貫しているか、説得力があるか)
- ・表現力(採点のポイント:文章の構成がよい(起承転結が明確である、誤字・脱字がない)
- ・課題把握力(採点のポイント:本文の内容をふまえて説明しているか)

第一に私は、質の高い看護とは、患者の個別のニーズや希望に基づいて計画され、提供されるべきと考える。患者の尊厳とプライバシーを尊重し、コミュニケーションや共有意思決定を通じて、患者との信頼関係を構築していくことを目指す。次に、質の高い看護として、看護師は患者の安全を最優先に考える必要がある。予防措置の実施、感染管理、薬剤管理など、患者の身体的、精神的な安全を保障するための適切な対策を講じる必要があり、こうした看護は、看護師自身が豊富な専門的知識とスキルを持っていることに依存する。そのため、絶えず最新のエビデンスに基づいた実践や、継続的な学習や研修による専門性の向上が求められる。総合的に考えると、質の高い看護とは、患者の安全とケアの質を最優先に考え、そのために専門的な知識や技術を駆使して行われる看護のことであると私は考える。

(2)

- ・論理的思考力(採点のポイント:自身の考えとその理由を論理的に述べているか、文章全体が一貫しているか、説得力があるか)
- ・表現力(採点のポイント:文章の構成がよい(起承転結が明確である)、誤字・脱字がない)
- ・課題把握力(採点のポイント:具体的な例があげられているか、具体的な例を用いて、自身の考えを記述しているか)

<解答例>

私は、質の高い看護を実現するためには、まずは給与体制の見直しが必要であると考える。看護師の給与は、看護師の貢献度や経験に応じて適正に評価されるべきである。質の高い看護を提供する看護師は、その専門性や責任の大きさに応じた報酬を受けることで、優秀な看護師のモチベーションを向上させることができる。また、その

給与体制の見直しのためには、ケア品質の評価と報酬が必要になると考える。看護師のケア品質が適切に評価され、報酬に反映される制度を確立することで、恒常的に質の高い看護を提供するモチベーションが広く維持される環境を作り出すことができると考える。

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文	<p>【出題意図】 米国における孤独とコロナ、ICT に関する英文の読解力と、その問題について考察する力、および公衆衛生や健康支援に関する解答を通じて論理的文章構成力と表現力を見る。</p> <p>問題1. 下線部①の意味とその背景について説明しなさい。</p> <p>【解答例】 “the latest public health epidemic”とは、「孤独」がアメリカの一個人や特定の地域のみで見られる病的な現象ではなく、今現在、アメリカ全体に広がっている疫病であり、人々の健康を脅かす重要な健康課題であり、公衆衛生の側面からの対応が必要であるということを意味している。それだけ孤独が深刻な問題としてクローズアップされていることが書かれている。</p> <p>この背景として述べられているのは、まずアメリカの近年の傾向として、礼拝堂や地域組織、自分の家族との関わりが希薄になってきていることが挙げられる。また、COVID-19 のパンデミックが影響して、学校や職場が閉鎖され、誰もが親戚や友人から離れて家で過ごすようになったことや、交流する場合でも意図的に集まるグループの人数を減らし、友人と過ごす時間も減らしていく現象がみられたことが述べられている。特に若者において、友人と交流する時間の大幅な減少が報告されている。さらに、特に若者においてソーシャルメディアの利用によって、対面での交流が多く失われてしまい、人間関係が弱まってしまったことも大きく寄与していると指摘している。</p> <p>【採点基準】 孤独が「公衆衛生のエピデミックである」、すなわち米国という国に蔓延する疫病であると宣言した背景について説明する。</p> <p>1.“the latest public health epidemic”とは、最新の公衆衛生のエピデミックである。孤独がアメリカの一個人や特定の地域のみで見られる病的な現象ではなく、今現在、国全体に広がっている疫病であり、米国の人々の健康を脅かす重要な健康課題であり、公衆衛生の側面からの対応が必要であるということを意味する。</p> <p>2.アメリカでは礼拝堂や地域組織、自分の家族との関わりが希薄になってきていること。</p> <p>3.COVID-19 のパンデミックが影響して、学校や職場が閉鎖され、誰もが親戚や友人から離れて家で過ごすようになったこと。</p> <p>4.家で過ごす時間が増えた(2. の解答)だけでなく、交流においても集まるグループの人数を減らし、友人と過ごす時間も減らしていった。特に若者において、友人と交流する時間の大幅な減少がみられた。</p> <p>5.ソーシャルメディアの利用によって、対面での交流が多く失われてしまい、人間関係が弱まってしまったこと。</p> <p>問題2. 下線部②について、今後どのようなことが必要か。本文が提示する論旨を踏まえ、あなたの考えを述べなさい。</p> <p>【解答例】 本文にはソーシャルメディアを利用する人の方が社会的に孤立していると述べており、確かにその面もあると思う。インスタグラムなどの SNS 発信を見ることで、いわゆる「リア充」の投稿と自分を比較して孤独を感じることもあったり、あるいは社会的な繋</p>

がりの薄い人が SNS を長時間見ているという因果関係もあるかもしれない。

人間は社会的動物であると言われ、古代から人間が敵と戦い自らの生命を担保していくためには、他者と結びつき、共に食料を確保し、分け合うことが必須であった。孤立することはすなわち死を意味していたのである。そういった原始的な本能に加え、「孤独」という社会的な痛みは、のどの渇きや身体的な痛みと同じ厳しいストレス反応として処理されると言われる。また、人とつながることによる幸福感は、ホルモンや神経回路に良好な影響を与えることも分かっており、人とつながること、すなわち孤独でないことが健康に良い影響を与える。一方、孤独が生命を脅かす重大な危機であることは本文でも述べられており、現代社会において深刻な課題である。

孤独を促進させるソーシャルメディアの利用は、今後どのようにあるべきなのか。テクノロジーの進化が対面のコミュニケーションの機会を失わせ、人々をより孤独に追いやったのは事実であろう。しかし、ここまで進んだテクノロジーを退化させることは現実的にはできない。したがって、どのような方向にテクノロジーを進化させ、あるいはどう活用し、テクノロジーと孤独の問題を解決していくかを探っていく必要がある。一方的にソーシャルメディアを見ることによる弊害が大きい可能性もあるので、相互の交流を促進するようなアプリの開発や SNS をきっかけとして対面の場を設けるといった仕掛けづくりも積極的に推進していくべきではないかと私は考える。実際に、婚活アプリなどで出会い、結婚に至る人が増えていると聞く。孤立化した独居老人が ICT 利用によって他者とのつながりを得るといった試みも可能かもしれない。

同時に、ソーシャルメディアのリスクに対する社会的な啓発や規制についての議論、健康への影響を踏まえた医療からのアプローチも必要になってくるだろう。年代によってリスクは異なる可能性もあり、医療従事者が認識を深め、学校や企業に啓発活動を行ったり、メディア利用や治療に関する専門家の育成も視野に入れる必要がある。

コロナがもたらした社会的変容は大きく、今後対面のみ、あるいはオンラインのみ、といった社会ではなくハイブリッドな形、すなわち両方を適切に利用していくことが求められる。孤独と健康、ソーシャルメディアの関係性を議論しながら、新しい社会を作っていく必要がある。

【採点基準】

1. 対面とテクノロジー利用、これらと孤独との関係について言及している
2. 孤独と健康面との関連について言及している
3. 対応策等に関連して、自分の考えを述べている
4. 小論文の論理性が担保されている